



かがやく 麻生中



令和8年5月29日発行
(第74号)
行方市立麻生中学校
住所:行方市南327-3

自分の思いや考えをよりよく表現し課題解決できる(語り場 学び場 麻生中)

～教育実習生～

5月11日(月)～5月29日(金)15日間にわたって3名の本校卒業生が教育実習を実施しました。実習生は、高い志をもち教員という職を志望している3名です。全国的に教員志願者が減少する中、これからの教育を担ってくれることを切に願いながら指導してまいりました。教員の仕事は、学習指導、生徒指導、特別支援教育、道徳、特別活動、学級経営、キャリア教育、人権教育、コンプライアンス確保、会計を含む事務対応、各種調査対応、施設管理運営、環境美化、部活動等、多岐にわたります。毎日変化があり、状況に応じて臨機応変に即応的に判断しなければならない場面も多くあります。そのような特性をもつ職種なので志願者も減少しているのかもしれませんが、しかし、その分、遣り甲斐があり、生徒のよさや可能性、強みが、学校教育活動の中で引き出され、たくましく、そして、しなやかに成長する姿、変容していく姿が垣間見えたときの喜びは大きいものです。さらに、何十年か後に開催される同窓会等へ参加し、その当時の思い出話を花を咲かせることも教員ならではの喜びです。麻生中学校には毎年のように複数の実習生が実習しています。麻生中になって15年の間に10名弱の卒業生が教師になり各市町村で活躍しています。実習生3名が口々にしたことは「麻生中生は落ち着いていて、丁寧である」ことです。麻生中生のよさや強みは代々脈々と引き継がれています。3名の実習生が、教員の道をすすんでくれることを願いつつ、これからも多くの教員を輩出する麻生中学校であり続けたいです。



～あいさつ～

朝の登校支援でかわされる「あいさつ」は、元気の源です。多くの生徒が明るく笑顔であいさつできます。登校支援している背中にもあいさつしてくれる生徒もいます(増加中です)。また、これまで返答が少なかった生徒がコクリと頭をさげるしぐさ、応答がなかった生徒が、右手をあげると右手を挙げ返してくれるしぐさ、どちらもかけがいのない、いとおいしい「あいさつ」です。自分自身を他者として認知し応答してくれることは、そこに存在として認めてくれていることです。どんな小さなしぐさにも意味があり、大切な行動です。そんな何気ないあいさつから元気をいただいている毎日です。

～体育祭に向けて～

6月3日(水)第15回体育祭に向けた練習が本格化しています。3年生はリーダーとして、全体をよく見て、判断し行動しています。2学年は3年生を模範としながら、3年生と1年生をつなぎ、支えています。1年生は1年生らしく活発に行動しています。体育祭という集団活動をとおして、生徒は「よりよく演技や競技をするには? よりよく団結するには? よりよく協力するには?」等、自問自答しながら「望ましい人間関係」「社会性」「自己指導能力」を獲得していきます。もちろん、簡単に獲得できる能力は少なく、間には、様々な不安、心配があります。「よりよく〇〇したい」との願いを叶えるためには、努力と工夫が必要となります。多様性を尊重し、多様な意見にも耳を傾け、合意形成を図ること。感情をコントロールし、肯定的、建設的な態度や言動をつくっていくこと。それらの営みの先に達成感や成就感が生まれ、自分自身の大きな成長へつながります。「たくましく未来を切り拓き、自らの人生を舵とることができる社会の創り手」の育成に向けて、多様な集団活動、豊かな体験活動をつくってまいります。



～流石です 麻生中生～

5月27日(水)本校生徒の自転車が登校途中にパンクしました。立哨支援していた教職員へその事実を伝えた生徒、その生徒に寄り添い、付き添いながら登校した生徒、体育祭予行練習中にケガをした生徒に寄り添い、付き添った生徒。どの生徒も「連携 救護 思いやり行動 流石 麻生中生」です。そして、このような生徒の育ちは決して学校だけでは育めません。思いやり深い生徒を支え、育てている保護者・地域に感謝です。

地域の方から「タチバナ、ウツギ、スモークフラワー」を頂戴しました。職員が飾りました。ありがとうございました。

